

図3-95 薬籠(豊田佐野医院所蔵)

国民健康 保険運営 協議会

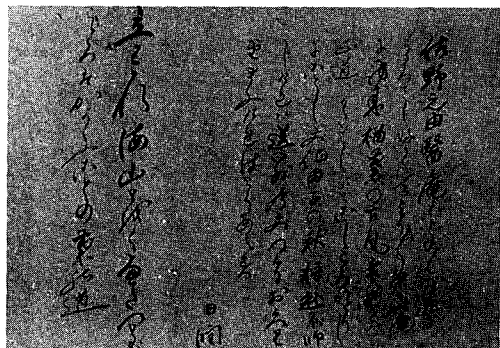
国保事業の円滑な推進を達成するため、協議会の設置が定められ、町内の医師、薬剤師の代表と保険者と公益代表として、町会議員のなかからそれぞれ委員が選ばれ、協議会が運営されている。委員は現在九名で医師二名、薬剤師一名、被保険者代表三名、町会議員代表三名である。

町内の 開業医

大口町では、江戸末期、一宮市上奈良で開業していた佐野町医者が、現在の豊田字南屋敷六〇番地にはじめて町医者を開業した。

以後、明治、大正、昭和と代を重ね今日の佐野医院となっている。当主、佐野新医師は六代目にあたり、初代佐野玄周氏より町内唯一の開業医として町民の治療に当たるとともに、健康管理にもつくされ町民の信望はあつく、近郷からも多くの人々が来院していた。また佐野医師は永年に亘り校医として、児童の保健衛生にも尽力され、その功績は偉大である。

このように町内には永らく開業医は



一医院のみであったが、昭和三六年になって小口字西野合五六ノ二に、今井医院が開業し、地域住民の利用増加とともに医療に専念され、また校医としても活躍されている。

ついで昭和五四年、町民待望の伊藤歯科医院が中小口に、五五年には上小口に丹羽歯科医院、外坪には大口外科クリニック医院がそれぞれ開業した。

第四項 水 道

簡易水道

町内では昔から生活用水は、すべての家庭が井戸水にたよっていた。また近年、極端に水位も低下し、水質も悪くなり、使用に適さなくなつた。農村の生活改善が進むなかで、良質な飲料水の給水がのぞまれ、簡易水道を作る声が高まり昭和二九年四月竹田地区に、同年一〇月小折新田地区に敷設され、竹田地区では四八戸、小折新田地区では二九戸が利用し、各戸の生活改善はもとより、地域の環境衛生面でも大きな効果をあげ、これが周辺部落への簡易水道の普及に大きな力となった。

両地区とも敷設については地区住民の労力提供のなかで工事費の四分の一の県費補助をうけて完了している。

その後、昭和三二年七月には豊田全域、秋田、小口余野地区がこぞって簡易



図3-96 簡易水道施設と水源地

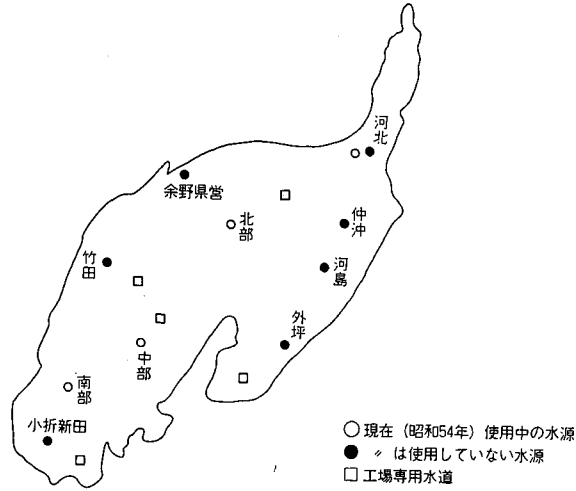


図3-97 簡易水道水源井所在地

| 北部 | 南部 | | | |
|--------------|-------------------|-------|--|--|
| 五四〇戸 | 二八〇戸 | 利用戸数 | | |
| 一五馬力 二台 | 一〇馬力一台 七・五馬力二台 | ポンプ | | |
| 一日 三、〇〇〇石 | 一日 一、五〇〇石 | 送水量 | | |
| 四〇米 | 五〇米 | 井戸の深さ | | |
| 一、四四五米 | 一、七三二米 | 最長距離 | | |

表3-114

水道を行政当局の積極的な援助をうけ、南部水道、北部水道と称して敷設し大いに利用した。この両者は村営水道で国費補助四分の一をうけて同年一月竣工した。

またこのころ替地地区にも簡易水道が完成し、つづいて大屋敷地区と秋田地区の一部、河北、外坪の地区にも敷設され、大口村一円に簡易水道ができ、これによって生活の向上は進展した。

こうして町内では、十一か所に各水道組合ができ管理運営をした。

南・北水道の敷設当時の能力はつぎのように記録されている。

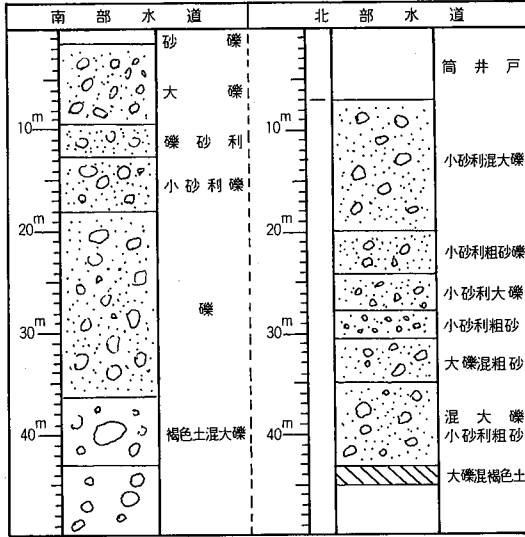


図3-98 南、北水道地質断面図

共同事業として「尾張北部水道企業団」を昭和四十七年四月一日より発足させ、上水道へときりかえた。犬山市の白山平にある丸山浄水場から、国道四一号線沿いに送られている県水を購入し、地下水と混ぜて一般家庭へ給水されている。

現在、取水している地下水は、およそ地下三〇メートルから六〇メートルの間のものである。

町営水道

現在の水道法が、昭和三二年に制定され、各地区の簡易水道は順次、町の管理に移行し昭和四五年より町内一円にわたり大口町営水道となり、安定供給にとめた。

こうした経緯のなかで本町の水道は管理、運営されてきたが、近年の社会構造の変動は、地下水の揚水に大きな問題を提起した。

尾張北部水道企業団

人口増や工場の進出、簡易水道、畑地灌漑の普及などによって地下水の取水量が増大し、水質の悪化や地盤の沈下が、大きな社会問題となり近年、地下水の揚水規制がされてきたため、本町も上水道の敷設が考えられ、広域行政の推進とも相俟って、扶桑町との



図3-99 尾張北部水道企業団(河北地内)

企業団の給水区域は、現在(昭和五四年度)、河北、仲沖、二ツ屋、外坪、大屋敷、竹田地区などで給水人口は、約一五、七〇〇人で普及率は一〇〇パーセントである。

つぎに企業団の今後の計画(昭和五五年目標年次)を表によって示すと、

表3-115 計画給水人口及び一日最大給水量並に一日平均給水量

| 区 | 分 | 量 |
|---------------|---|------------|
| 計画給水人口 | | 六五、五〇〇人 |
| 一人当り一日最大給水量 | | 四〇〇リットル |
| 一日最大給水量 | | 二二六、二〇〇立方米 |
| 一人当り一日平均給水量 | | 三二〇リットル |
| 一人当り一日時間最大給水量 | | 六〇〇リットル |
| 一日時間最大給水量 | | 三九、三〇〇立方米 |

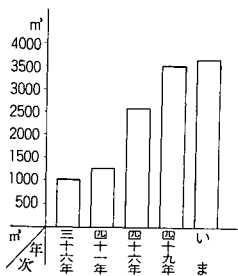


図3-100 1日に使う水道の水の量

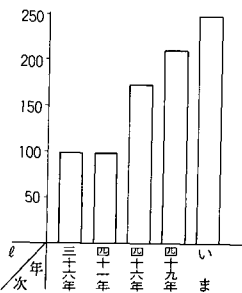


図3-101 1人1日に使う水道の水の量

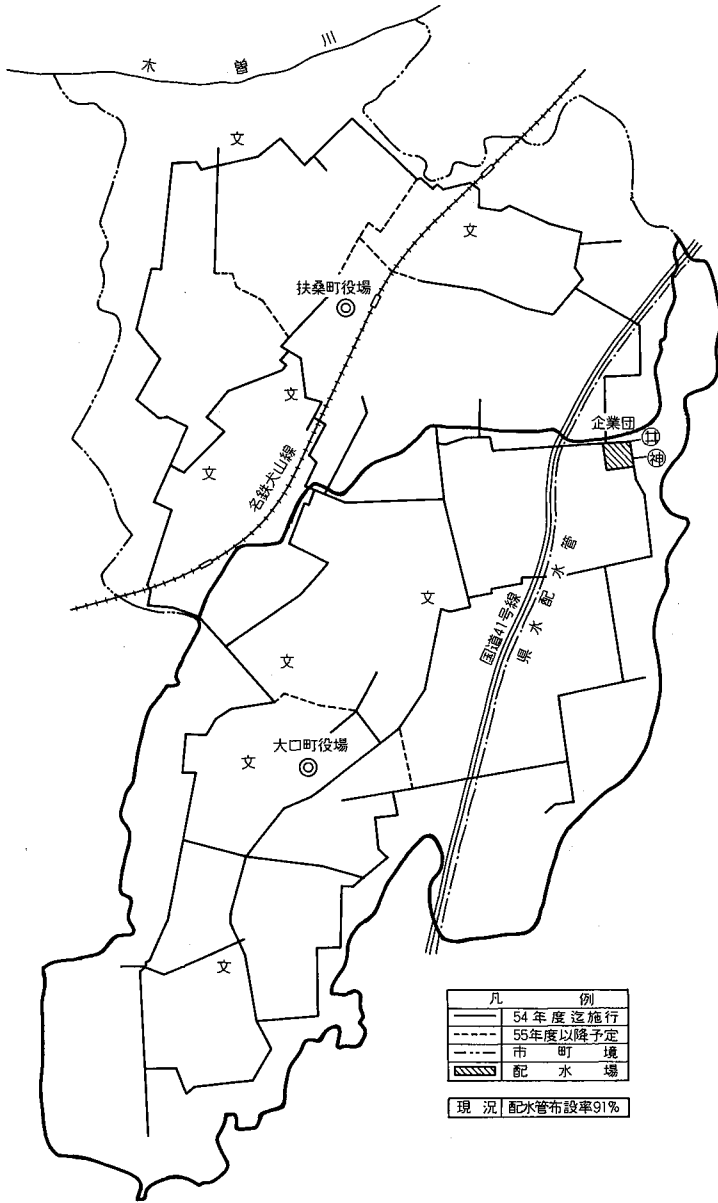


図3-102 尾張北部水道企業団配水管敷設計画図

表3-116 給水人口の変化

| 区 分 \ 年 度 | 昭和48年 | 昭和50年 | 昭和52年 | 昭和54年 |
|------------------------|--------|--------|--------|--------|
| 行政区域内人口 人 | 16,023 | 15,997 | 15,683 | 15,748 |
| 給水区域内人口 人 | 13,850 | 14,574 | 15,058 | 15,706 |
| 1日最大給水量 m ³ | 3,926 | 4,243 | 6,397 | |

また今後の人口の増加、生活水準の上向などにもなつて生活用水の需要増が見込まれ企業団ではこれに対応し、地域内の配管の整備をはじめ諸施設の充実、能力の向上に積極的にとりくんでいる。

第五項 文化 生活

文化生活への移行
戦後の経済発展にともなつて本町が都市化するなかで、町民生活は近代化に向かつて大きな変化をみるようになった。

一般家庭にはテレビ、冷蔵庫、電気炊飯器、掃除機、冷暖房器具など多くの電化製品が取り入れられるとともに、ガス、水道もほとんど全戸に普及し、家事労働にしいられていた婦人はかなり労力的に楽になり、家事から解放され、職場へ意欲的に進出した。

食生活
食生活の変化は戦後の食糧不足から昭和二五、六年ごろになつてほしい

に解放され、バター、マヨネーズ、味の素などの科学調味料が多く出回るとともに、冷蔵庫など器具の発達につれて、魚、肉、乳製品なども豊富にいつでも購入できるようになり、食卓には栄養価の高いものが多くでるようになった。

また今日では、インスタント食品、冷凍食品など新しい技術により製品化され市場に出回り、家庭での調理の時間が少なくなるなどの変化もみられる。

このように食生活あるいは、各家庭における器具、施設が完備、向上し町民の日常消費はこれに対応し急速なテンポで進展した。

衣 料

衣料についても変化をみせ、戦時中のモンペから戦後になるや、これがストラックス、ミニスカートに変わり、なかでも若者の服装の中には、色、型など男女の区別さえできないものまで現れ、昔は都会と田舎では衣服にかなりの差があったといわれたが、今日ではまったく流行も同じでこれは感じられない。

また昔の絹物、木綿物中心から最近では化学繊維が開発され、テトロン、ナイロンなどの製品が日常衣服の主要な部分を占めるようになった。なかには「使い捨て」の製品まで出現し補修して再び着用する意識はまったく薄らいできています。

住 居

住居も昔の居住用と農作業用の併用の間取りから、文化生活が進行するなかで、台所改善、住宅改善がさかんに行われ、部屋は明るくなり、ほとんどの家庭では応接間やリビングルームができ、またたみを中心にした生活様式から板の間や椅子を多くとり入れた生活に変化し、また昔ながらのかや葺の家はまったく姿を消し、かわら葺になり赤、青、みどりのかわらも目立つようになり、鉄骨コンクリート造りの家も今日では建築されていく。

このように衣、食、住生活がそれぞれ変化するとともに、社会一般に労働時間が減少する傾向がみられ、余暇時間はだいに増大した。今日では多くの企業で、週休二日制の採用が行われ、自由時間が増大しこの利用方法も多様化、個性化し、テレビの視聴、読書など教養娯楽中心からしだいに観光旅行、スポーツのように余暇を戸外で楽しむ人、また自然に親しみその中で休養をしようとする人が多くなった。